○日本種子植物集覧第一冊の出版年（山中二男） Tsugiwo YAMANAKA: The date of publication of Dr. H. Hara's Enumeratio Spermatophytarum Japonicarum, Pars Prima

原　寛博士の日本種子植物集覧は，机辺になくてはならないものである。私も何度か引用させてもらったが，その第一冊の出版年は，すべて1948としてきた。これは私ばかりでなく，他の方の書かれたものにも見られ，もとはといえば扉の昭和23年を信用し，欧文表題の下も1948になっているためである。

奥付のない欧米の本ならこれで問題はないが，実は本書には，昭和二十四年六月二十五日印刷，六月三十日第一刷発行の奥付がついている。序文を書かれたのは昭和23年1月となっているが（このなかで，昭和二十三年秋より二ケ年間の滞米中…，とあるのは，昭和十三年…の誤りである），同年には出版されなかったことになる。第二冊（1952年3月30日発行）と第三冊（1954年5月30日発行）の序文は，それぞれ発行の3，4か月前の日付になっているから，第一冊も昭和24年に書かれたと思えないこともないが，それはとくに問題にはならない。ただ，実際に出版されたのが昭和24年であるということで，原博士自身が，その後の論文に1949としていられることでもたしかである。また，私が手にしたのは，昭和24年の夏以降であったと記憶している。

これで，国内では昭和24年（1949）が正しいことがはっきりするが，奥付（第二冊と第三冊では西暦年号でアラビア数字を使っているが，第一冊は昭和と漢数字である）のわからない国外の研究者は，これからも1948とする懸念が残っている。1972年に同書は西ドイツで3冊分をまとめてプリントされ，このプリント版も国内でかなり広く用いられている。ところが，この第一冊分には奥付がプリントされておらず，第二冊と第三冊にはプリントされているのも不思議なことである。そうした点で，おなじ出版社の不注意によるものでも，やはり岩波書店から昭和19年に出た中野治房博士の草原の研究が二月三十日発行となっているのとは異なり，日本種子植物集覧の出版年の1年違いは，大きな影響を及ぼしかねない。

余談になるが，妄言をおわびして，まちがいは続くことを書きそえておく。日本植物学会発行：日本の植物学百年の歩み（1982）の日本植物学会百年史年表では，草原の研究はさらに誤って昭和18年（1943）2月30日刊としている。同書の年表では日本種子植物集覧の第一冊がやはり，昭和23年（1948）の欄に6月30日刊となっている。なお，本文のなかの第一冊から第三冊の発行年（1949，'77，'79）のうち，1949は正しいが，'77 と '79 は，それぞれ昭和27年と29年との混同と思う。このように，わかりきっていてなにげなく誤るのはよくあることで，同書のスゲ科やカンアオイ科というのも，そのたぐいであろう。

付け加えておくと，官庁の出版物のほか，ときには大学の紀要・研究報告などにも，年度を入れて，実際の発行がその翌年であるため，混乱をきたし迷惑することがしばし

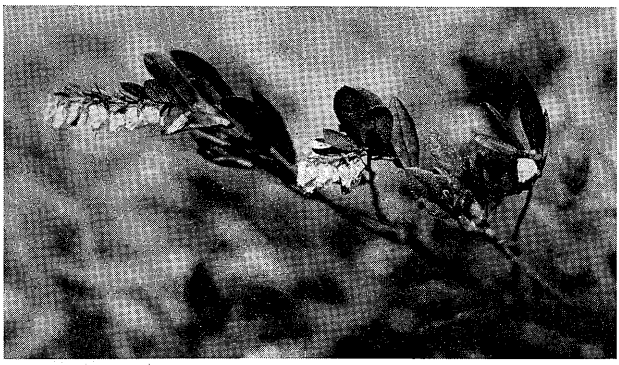
ばある。

Enumeratio Spermatophytarum Japonicarum by the late Dr. H. Hara is one of the most important literatures dealing with flowering plants in Japan. The first part (Pars Prima) of this book was actually published on June 30, 1949, and 1948 on the title page is considered as a typographical error.

(高知市[redacted])

○高等植物分布資料 (125)　Materials for the distribution of vascular plants in Japan (125)

○ヤチツツジ *Chamaedaphne calyculata* Moench.　1988年6月12日，秋田県側にあ



る須川湖東部の湿原で，ネジキの花を細くしたような白い花をつけたあまり見栄えのしない 30 cm ほどの高さの常緑の木本を見付けた。その数は10本足らずである。帰ってからそれが北海道にあるヤチツツジ(ホロムイツツジ)であることが分かった。本州での記録がないので，念のために秋田市の藤原陸夫氏に問い合わせたところ，秋田県でも初めてで，後日藤原氏も確認してくれた。同氏のお勧めに従って事実だけを報告する。

(栃木県宇都宮市[redacted]　森谷　憲 Akira MORIYA)